

市役所での手続きの際には マイナンバーの通知カードと身分証明書が必要です



通知カードを提示するときは、身分証明書も必要です

- ・顔写真付き身分証明書（運転免許証・パスポート・身体障害者手帳など）は 1 枚だけ提示。
- ・顔写真なしの身分証明書（健康保険証・介護保険証・年金手帳など）は 2 枚提示。

個人番号カードを提示する場合は、身分証明書は不要です

- ・マイナンバーの通知カードに同封されている申請書で個人番号カードの郵送申込ができます。手続きについては市民課市民係（☎ 63-1302）にお問い合わせください。

手続きによって必要なものが異なる場合があります 詳しくは各窓口へ

☒ 福祉課総務係・福祉係 ☎ 63-1406 福祉課保護係 ☎ 63-1409 高齢者支援課介護保険係 ☎ 63-1418
健康生活課高齢者医療係 ☎ 63-1420 健康生活課国保年金係 ☎ 63-1327
保健センター ☎ 63-1133 子育て支援課保育幼稚園係・給付相談係 ☎ 63-1417



▲個人番号カード

市民病院の建設地表明時の

説明概要をお知らせします

昨年の12月17日、山下市長は市民病院の建設予定地を「野外音楽堂周辺地域」と表明しました。選定理由は病院という施設の性格や安全性など12項目にわたって検討した結果です。市議会からも、新市民病院の平成31年度末までの完成を求める決議や市民一丸となって同年度末までの完成を目指す決議がなされています。

今後は、平成31年度の完成に向け、事業を進めていきます。以下に12月17日の市議会特別委員会での山下市長の説明概要を掲載します。

決定までの経緯

長らくの懸案事項だった市民病院の建替場所については、3・6・9・12月の市議会でもさまざまな角度から議論を重ねて参りました。また、委託業者の調査等も踏まえ、市議会の新病院に関する特別委員会でも「競馬場跡地」や「野外音楽堂周辺」の2カ所の候補地について説明させていただいた上で、11月26日、12月1日にかけて、市内9カ所で1300人に及ぶ市民の皆さんの参加を得て「市民病院の建設地を市長

と語ろう会」も開催しました。

市民病院の移転問題は市長選挙の大きな争点であったこともあり「市民の皆さんは競馬場跡地への移転反対との民意を示した」という認識でいましたが、ことは市民の皆さん全体に関わる問題ですし、今後数十年の荒尾市政の方向性にも関わる問題です。私個人の認識はまずおいて、市議会での議論や関係機関の意見、コンサルタントの調査結果など専門的な提言や問題点の指摘なども勘案し、市民病院建設予定地について、さまざまな視点から慎重に熟慮を重ねて参りました。

その間、市民の皆さんからもたくさんの方に残るご意見をいただきました。あるところでは「海の見える市民病院」として、勤務される医師の皆さんが有明海の光景で疲れを癒す姿を想像された人もいました。またあるところでは「市民の命の重さは全て平等だ」として、救急搬送時にJRの踏切による遮断の懸念を真剣に開陳された人もいました。そのような市民の皆さん、一人一人の思いを受け止めつつ、決定を下さねばならない自分の責任の重さを痛感して

います。その重さをしっかりと胸に受け止めながら、いくつもの視点から考慮した経緯を述べます。

病院という施設の性格の視点

市民病院という施設は、性格上、24時間、365日の稼働を求められています。医療スタッフが常時、市民の皆さんの命と健康を守る使命を帯びて仕事をしていますし、病棟には常時、自ら動けない、あるいは、ケアを必要とする患者さんが多数入院しています。また、災害時には有明医療圏の中核の一つとして、荒尾市外を含め、患者さんの緊急受け入れなどが期待されています。

そのような病院施設の性質・性格を勘案し、立地を考えると、まずは「できる限り災害のリスクが低いところ」でなければならぬと考えます。これは鬼怒川の氾濫をはじめ、ことしの日本各地を襲った水害などを見ても明らかです。市民病院が災害拠点病院を目指すなら「入院している患者さんが、市民病院が交通途絶し、水源・電気・ライフラインの確保が困難になったため、他の病院に搬送される」などという本末転倒なことが起こらないようにすべきと考えます。先の東日本大震災以降、各地の公的施設がより安全な高台へと移転し、やむを得ず海沿いに設置せねばならない場合も、相当の土盛

りなど所要の手当をしている点から見ても、これが世の中の流れではないでしょうか。

救急医療の視点から

救急医療の視点から大切にすべきなのは、消防署との連携です。荒尾消防署は大島地区から東屋形地区に近い位置へと移転しました。現時点では、市民病院との位置は相対的に近くなったのですが、せっかく近くなった位置関係や距離を無にするような場所に新たな市民病院を建設することは不合理ではないかと感じています。

さらに、救急搬送の問題もあります。有明広域行政事務組合本部でも所要の措置を取っていると聞いていますが、病院の新設とともに、JRの踏切をできるだけ使わなくて済むような社会資本の整備ができれば、市民の皆さんの懸念や救急隊員のストレスは少なくなるものと考えます。この点は、有明海沿岸道路の関係でも検討を進めていかなければならないと考えています。

市民のための市民病院

通常時や有事の際、患者さんや家族も含めたところでの市民全体の利便性と言い換えてもいいかと思えます。つまり、救急搬送の時間が市民間であまり偏った形になってはいけ

ないのではないかと、そして、有事の際、市民の皆さんが通常とりえる交通手段、徒歩・自転車・自動車などの手段で市民病院に来る際、市内のどこからでもほぼ同じ距離であること、つまり、市の中央部が望ましいのではないかと考えました。その上で、有明地域の中核病院として考えた場合、近隣の南関・長洲・玉名・和水・玉東・大牟田、さらに熊本・福岡・佐賀方面とのアクセスも考慮し、よりよい場所を選定せねばと考えた次第です。

療養環境の考察

病院診療は優れて環境の問題でもあります。患者さんが安心して療養に専念でき、時には勇気づけられたり、明日への希望を感じたりすることができるよう環境・景観が、市民病院の診療に与える影響も無視できないと考えます。

競馬場跡地は西側に広々とした有明海を臨み、雲仙岳をシルエットにした夕陽が眺められる良いところで、野外音楽堂もスポーツや散策を楽しむ人や子どもたちの声が聞こえてくる緑豊かな場所です。

お見舞いに来る人たちにとって、周囲の生活利便施設の様子が病院の使い勝手にも、病院の与える印象や雰囲気などにも影響してくるのではないかと考えます。さらに、病